



発行所
長野県下伊那郡高森町
下市田 高森町公民館
発行人
大 洞 利 雄
☎35-9416
印刷所
龍共印刷株式会社



歳の瀬に七福神来たる(木目込人形)

体験! スエーデン発祥の ニュースポーツ「クップ」



うまく倒れるかな?

秋たけなわの10月14日(日)公民館主催の「ニュースポーツ体験会」が天白公園で開催されました。今回は、北欧生まれの「クップ」と言われるニュースポーツ。最近ではヨーロッパやアメリカを中心に、子供からお年寄りまで幅広い年齢層の人たちの間で親しまれているスポーツで、少しの広場と道具があれば、

案じて行きたいと考えているそうです。公民館では、これまで高齢者や子供さんの中で、スポーツは億劫でなかなか参加できなかった人達にも、身体を動かす習慣を作ってもらいたいとの思いから、夏の公民館スポーツ大会(ワンバンドふらばーるバレー、スローピッチソフトボール)に代わるスポーツとして提

また、60代の男性は「まだ慣れないので分からないが、慣れればバタンクと同じように楽しめよう」と話しておりました。公民館では「クップ」をより多くの町民の皆様を知ってもらうための支援活動を準備しております。道具は、今回長野県の補助金を活用し12セット購入し保有しており、各分館や常会単位、個人にも貸し出し出来るようになっております。また、ルールや競技の指導についてはスポーツ推進委員、柿里SCの皆さんにお願いし地域へ派遣してもらうよう依頼しております。最後になりますが、今回の「ニュースポーツ体験会」をきっかけに、公民館事務局の支援活動を積極的に活用し、より多くの皆様に「クップ」の魅力と可能性を知って頂きたいと思っております。

論 説

昨年度、全国の小中高校と特別支援学校が把握したいじめの件数が41万余件とか。文科科学省は、早期の対応に向け、いじめとおもう事例であつても、いじめと捉えるように促してきた。

それによつて、隠れていたいじめに目が向いた面もある。これほど多くの子どもが

被害を受けていることに、びつくりで胸が詰まる思いです。いじめられて、最悪の事態になった例も多く聞く。いじめをなくすには、家庭と学校が連携を密にして、子どもの気持ち、心を開かせ、聞くことは大切と思うが、教職員が時間をかけて子どもと接し、個別の事例に丁寧に対応することができ

ていて、実態も多く聞く。この現状を改めることができないのか。時間に追われれば、気持ちの余裕も持てない。学校の風通しの良さも失なわれる。国の有識者会議では、いじめへの対応を、教職員の最優先事項とするよう提言しているようだが、十分な教職員数を確保して、過重な負担を減らす必要がある。昔もいじめはあったかな?と思うが、「子どものけんかに親は出ず!」の時代に育ったものとして、なぜいじめが多くなったのか。今のようにならば、いじめの時代だったのか。良い時代だったのかと感ずる。学校の外に、子どもが安心して頼れる場や相談できる人等、町や地域の住民が、皆で話し合つて取り組む機会ができる事を望む。

1997年臓器移植に関する法律が施行されてから20年間が経過していながら、日本全国で年間移植は100例にも満たない。2016年からの統計では長野県では1件のみです。2012年に家族からの申し出があれば、まず家族への移植が可能となっています。それでは出来ない事です。臓器移植は20年かけて尚、進歩が無いどころか退行しているのが現状のようです。

「クップ」はスエーデン生まれの的あてゲームで、1チーム6人で行う団体戦。簡易コートのうち自陣にクップ(角材)を並べ、先攻、後攻を決めた後、手持ちのカストピンナ(丸棒)を投げて相手陣営のクップを倒す。相手のクップを全て倒した後、両陣営の中間に立てた角材のキングを倒したチームが勝利となります。当日は天候にも恵まれ、さわやかな秋空の下、小学生から70代までの約40人が参加。日本クップ協会認定普及指導員の龍口俊彦さんからルールの指導を受け、参加者は早速3つのコートに分かれて実践。狙い通りにクップが倒れると「お!」と声が上がリ、難しい角度から成功すると拍手したりハイタッチして喜び合っていました。子供から大人までが気軽に楽しめるとあって、夢中になつて競う親子の姿も見られました。参加者の感想を聞くと、3人組の女子大生は「ボウリング感覚で楽しめるのがいい、慣れればけっこう行けるんじゃない」



的をめがけて「えいっ!」

三面鏡

臓器提供・臓器移植ネットワークというものを、ある事がきつかけとなり、とても身近に深く考える様になりました。

私はどうだろう。家族はどうだろう。内容がシビアで繊細だけに公にお願いをする行動は難しい事だという話を移植ネットワークに身を置くその人は、何か悪い事でもしているかの様に話しました。「何か変、何かおかしい。」そう思いました。極端ですが、死んでしまつたら体は持つて行かれない。ならば(生きたい。普通の生活がしたい。)と望む人に渡してやりたい。その時渡せるものがあるならそうしたいと考える様になりました。受け入れ難い「死」。それでも私のその行動を家族は誇りを持って全うさせて欲しいし、家族の誰かがそうなら私は思いを誇らしく見届ける。ここに思いが行き着きました。

1997年臓器移植に関する法律が施行されてから20年間が経過していながら、日本全国で年間移植は100例にも満たない。2016年からの統計では長野県では1件のみです。2012年に家族からの申し出があれば、まず家族への移植が可能となっています。それでは出来ない事です。臓器移植は20年かけて尚、進歩が無いどころか退行しているのが現状のようです。

祝30周年記念公演「龍神の舞」

公民館文化祭 まるごと収穫祭

38回高森まるごと収穫祭!!

秋も深まり紅葉が綺麗に色づく中、高森まるごと収穫祭!!が、11月17日・18日に開催されました。

天候が心配されていましたが、両日共に晴天に恵まれて、たくさんの方々が来ていました。

出店の数も多く、コミニティテント村や、友好都市観光・特産品PRブースがあり県外からも参加されていました。

わくわくしながら歩いてみると、下市田支館のおしるが無料配布されていました。



並んでお待ち下さい

店長こと副区長さんにお聞きしたところ、2日間で2,500食配布する為

よ平き能ワラフの紹介

代表 龍口靖彦

いつも文化祭ステージ発表に出演させていただき、ありがとうございます。

私達のクラブは上平在住の男性九名で構成されています。元々は今から五年ほど前、運動会の応援合戦を引き受けて企画・出演した事をきっかけに、クラブとして活動を始めました。

主な活動は町内や地区内のイベントに参加させていただいており、イベントに合わせて数ヶ月の練習を行なっています。今年の文化祭では和太鼓を披露しましたが、ダンス・コント・戦隊ヒーローショーと毎回のイベントごと趣向を変え、時には上平の子ども達と共演することもあります。内容(ネタ)を考えるのがひと苦勞で、最近の流行だった

たり世界の動画だったり、あらゆる分野を探しまくって企画を練り上げています。メンバーの職業は公務員・整体師・専業農家・銀行員・大工等々バラバラですが、だからこそ様々なアイディアを生み出せるのかも知れません。たまには年齢に合わない過酷なネタにチャレンジする事もあります。練習がきつくて途中で無理かもしれないと思っても、全員が本番までには仕上げてくる姿に毎回驚かされます。今回取り組んだ和太鼓は紅華(くれなゐ)さんにお世話になりました。世話になりご指導いただきましたが、慣れない太鼓にメンバーの身体が悲鳴を上げていました。太鼓だけを真剣に練習していると、メンバーの誰かが、ひと言：



迫力満点! 和太鼓演奏

「我々が求められていることは、お笑いだよー」とは、納得でした。私達のステージは一等賞を目指すものではなく、皆さんに喜んでいただけるショーを見せたい一心で頑張っています。今後も楽しいステージを愉快な仲間達と共に作り上げていきたいと思っています。多少不揃いでも大目に見ていただき、ご声援よろしくお願致します。

中央公民館では、各種団体による、日頃の活動成果の発表の場として、日本画・書・絵手紙・ポスター・写真をはじめ、団体の活動紹介など創



公民館展示作品

らお年寄りまで大勢の人に訪れていただき記念写真のカメラをうれしそうに持ち帰ってもらえたことが本当にうれしかったです。それから続くこと25年目となりました。機械の進歩と共に写真も綺麗に早くプリント出来るようになりました。写真を撮ってカレンダーにする、そんな飾りのない単純な事だけれど、思い出の手助けになれたかなと思います。ありがとうございました。

お手玉づくり体験ではいろいろな図柄が用意された袋の布に小豆や数珠玉などを詰めてお手玉の口を縫って作りました。お手玉を製作した後は、お手玉のやり方を教えていただきました。お手玉は、日ごろ使わない脳を使うため、脳の活性化に大変良いとのことでした。文化祭は、多くの町民の皆さんに活動を知ってもらう良い機会です。今後積極的な活用をお願いします。

高森町まるごと収穫祭に併せて高森町公民館主催の文化祭が11月17日(土)・18日(日)の2日間、中央公民館と福祉センターを会場に開催されました。両日も晴天に恵まれ、多くの家族連れでにぎわいました。

材料の貝は文化祭の展示準備の際の製作講習会で教養部員が貝を食べて確保しました。また、毎年好評のプラ板は、プラスチックの版に各自で好きな絵を描き熱で加工してペンダントやホルダーにしました。

お手玉は、日ごろ使わない脳を使うため、脳の活性化に大変良いとのことでした。文化祭は、多くの町民の皆さんに活動を知ってもらう良い機会です。今後積極的な活用をお願いします。

賑わいをみせる日間

教養部長 宮下 誠

思い返せば、文化祭と視聴覚との関わりは30年ほど前のことで、(私の記憶の始まりでそれより前のことは分かりません)文化祭といえど書道や絵画、陶芸手芸に写真、研究発表などクラブ活動も盛んに行われていて展示物も公民館の2階から福祉センターまでたくさん展示されていました。公民館の2階に人があまり立ち寄る事もなく、せっかくの展示作品を見に来る人もありませんでした。なんとかな勢の人を2階へと

「我々が求められていることは、お笑いだよー」とは、納得でした。私達のステージは一等賞を目指すものではなく、皆さんに喜んでいただけるショーを見せたい一心で頑張っています。今後も楽しいステージを愉快な仲間達と共に作り上げていきたいと思っています。多少不揃いでも大目に見ていただき、ご声援よろしくお願致します。

お手玉づくり体験ではいろいろな図柄が用意された袋の布に小豆や数珠玉などを詰めてお手玉の口を縫って作りました。お手玉を製作した後は、お手玉のやり方を教えていただきました。お手玉は、日ごろ使わない脳を使うため、脳の活性化に大変良いとのことでした。文化祭は、多くの町民の皆さんに活動を知ってもらう良い機会です。今後積極的な活用をお願いします。

文化祭と視聴覚部

視聴覚部長 林 勝朗

写真のカメラをうれしそうに持ち帰ってもらえたことが本当にうれしかったです。それから続くこと25年目となりました。機械の進歩と共に写真も綺麗に早くプリント出来るようになりました。写真を撮ってカレンダーにする、そんな飾りのない単純な事だけれど、思い出の手助けになれたかなと思います。ありがとうございました。



デジタルフォトカレンダー

大人気!! 貝ホルダー

山川に風のかけたる 「ブラタカモリ！」

紅葉の不動滝へ

「晴れの特異日」である11月3日、晴天のもとウォーキングイベント「ブラタカモリ！」が今年も開催された。

道なき道を歩くことであるが、今年のコースの道路未舗装率はわずか0.02%。例年に比べ、比較的歩きやすいコース設定となった。参加者それぞれが思い思いのペースで、紅葉に染まる山川に沿って走る舗装道路を歩き、高森町が誇る名瀑「不動滝」を目指した。

11月の不動滝は少し肌寒くもあつたが、坂道を登ってきた身体には滝壺からの霧がとても心地よかった。そしてゴール地点の天白公園で、恒例となつた豚汁に加え、漬物やシャインマスカットなどが振る舞われたのち、ニュースポーツ「KUB」



紅葉を楽しみながらブラ歩き

紅葉を楽しみながらブラ歩き。11月の不動滝は少し肌寒くもあつたが、坂道を登ってきた身体には滝壺からの霧がとても心地よかった。そしてゴール地点の天白公園で、恒例となつた豚汁に加え、漬物やシャインマスカットなどが振る舞われたのち、ニュースポーツ「KUB」



名瀑「不動滝」の霧を背に受けて

公民館主事交代

前主事

清水 衆



10月異動により、社会教育係から学校教育係へ異動となりました。2年間とい

う短い間でしたが、関係の皆様には大変お世話になりました。この2年間の中では、多くの失敗をしてきました。しかし、町制施行60周年記念となる町民運動会を担当できたこと、そして30回目となる平和へのかけはし使節団広島平和バス派遣事業を担当できたこと、そして公民館編集部員でもある熊谷昌治さんのパラアイスホッケーの応援事業に関われた

ことは、大変光栄なことでした。実は、これから社会教育や公民館の活動を盛り上げていこうといういろいろ考えておりましたが、異動となりましたが、社会教育や公民館でお世話になった方々への感謝、そしてつながりを大切に、新しい部署でも精一杯頑張ろうと思っております。

今更に関係して頂きまして全ての皆様に感謝申し上げます。ありがとうございます。公民館は地域の絆・地域コミュニティの再生及び地域の活性化を図る

新主事

寺沢 浩之



10月より教育委員会社会教育係及び公民館主事としてお世話になっている寺沢浩之です。公民館は地域の絆・地域コミュニティの再生及び地域の活性化を図るため活動しています。また、地域の方々との関わりが深く、お互いの理解と協力が無くては活動を行うことができません。町民の皆さんにとって『公共の館』として、全ての町民に解放され利用されるよう、皆さんと一緒に活動していきたいと思



町民の数だけ心に残る本がある
読書と私・わたしの一冊①
読むことで自分の世界を広げる読書。感動した本との出会い、人に薦めたい一冊、図書館の利用など、本の話を通じて、タスキをつなぐコーナーの初回です。

L I F E

加島祥造 書・画・文 / PARCO出版

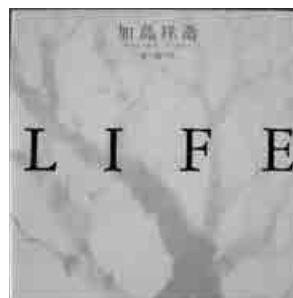
吉沢 保人

以前図書館が主催する「老子を読む」という読書会があり、私も参加していました。二千数百年の時空を超えて現代に蘇る、生命への温かい思いやりを持つ老子のメッセージについて、講師の故・木村喜久雄先生の解説を交えたお話を通して学び、老子の世界に浸ることができました。

この本の帯には「君の命はいつも君だけを愛してる」という言葉がありました。人間が生かされているという発想からでた言葉で、命の側から見れば、あなたを生き、愛し、育てようとしている。自分の体を造っている60兆個の細胞は、私たちが寝ているときでも起きているときでも、片時も休まずあなたという人間の一個の生命体を支えて生かしてくれている、だからあなたもその愛を受け入れ、生かされていることを大切に思うということです。

日。私達「柿の里SC」は素敵なコースと、うまい豚汁を用意して来年も待っています。握り飯を1つ持つてお出かけ下さい。11月3日に会いましょう!!

この本で、加島さんが長年愛し続けている老子の言葉を一言一句味わって読む



2018年一般書 ベストリーダー

- 第1位 九十歳。何がめでたい 佐藤愛子 (小学館)
- 第2位 蜜蜂と遠雷 恩田 陸 (幻冬舎)
- 第3位 かがみの孤城 辻村深月 (ポプラ社)
- 第4位 マスカレード・ナイト 東野圭吾 (集英社)
- 第5位 コーヒーが冷めないうちに 川口俊和 (サンマーク出版)
- 第6位 コンビニ人間 村田沙耶香 (文藝春秋)
- 第7位 ラプラスの魔女 東野圭吾 (KADOKAWA)

年末年始の
休館のお知らせ

12月29日(土)・
1月4日(金)

ご理解とご協
力をお願いいた
します。

(図書館職員)